

脳神経外科

夏にも多い脳梗塞く夏場の予防が大切く

7月に入り急に蒸し暑くなり、熱中症が心配な時期になりました。それと同時に夏場は脳梗塞がよく起こります。その

理由は、汗をかき体の水分が不足して脱水になりやすいからです。脱水になると血液がドロドロになり血栓ができやすく、脳梗塞が突然に発病します。

脳が障害された部位によりいろいろな

症状が出ます。半身の麻痺やしびれ、言語障害、めまい、ふらつきや視野の左側を気づかず無視するなどさまざまです。

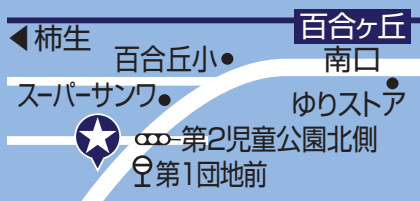
熱中症と同時に脳梗塞を予防するためにも、適切な水分補給が大切です。特に高齢者は、のどの渇きを感じにくくなっていますから、食後や入浴の前後に一杯の水やお茶を飲むなど、生活の中でこまめに水分補給をする習慣をつけましょう。

寝ている間に汗をかき、血液が濃縮して血栓ができやすくなりますから、寝る前のコップ一杯の水は大切です。



石田 和彦

■ 脳神経外科・整形外科
いしだクリニック



☎044-955-0250
麻生区百合丘2-7-1
<https://www.ishida-clinic.or.jp/>